京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金四十五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 二月十四日
發行編輯兼印刷人 山下□□
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番

寄書 伊藤公の餘命

鷹氣生

記者足下
一時危篤を傳へられし伊藤公の病狀も、氣候の緩和に伴ひて漸次輕快に向ひつゝありと云へば、其全癒期も又甚だ遠からざるべし、之れ一に治療、看護に遺算なかりしに依るなるべきも、然れども又旻天の此の老偉人を失ふに忍びず、其壽を籍ずに吝ならざるものありしが爲めならずんば非ず、而してこれが爲めに漸く愁眉を開き得たるもの、豈唯り其少數昵近者のみならんや、其對韓政策に慊焉たる吾人の如きも衷心より此の明治第一人の爲めに其全癒の一日も速かならんことを希望するもの也。

記者足下
由來韓國の風土は頑强殆んど家の如き余にすら善からず、余は周圍の事情にして許すべくむば一日も速く去らんと企圖しつゝあるは事實也。然るを如何に國家の爲めとは云へ、古稀に殆んとす元勳藤公を此の土に送りて健康に損傷することなからんを望みしものありしとせば、其は實に愚者也、元氣旺盛、精力澱溢せる公ならざりせば既に昨年に於て倒れたりしなるべし。然るを何事ぞ臺閣諸公は、藤公の病痾ゆるを俟ち再び公を韓國に煩はさんと企圖するとは斯くの如きは公を驅りて死地に陷るゝと同一のみ、臺閣諸公の藤公に於ける殆んど師父子弟の關係あるにあらずや、然るに其子弟にして師父を死地に誘致するの理あらんや。

余を以て之れを測るに臺閣諸公は藤公をして一切の俗事に遠からしめ、其天壽を全からしむべく計らるべし、之れ老師父に對する子弟の執るべき道にして、又公の終りを全からしむる所以の道なれば也。

記者足下
藤公にして隱退せらるゝとせば、次に起るべき問題は其後任者擬定にありとす、然れば吾人が希望する所を忌憚なく披瀝すれば桂侯に指を屈せざるを得ず、思ふに桂侯なりせば此の混沌たる漢城の妖雲を一掃して地方に跳梁せる暴徒を畏服し保護の實績を擧げ得らるべしと信ず。
記者足下、此れ果して非望なるべき乎。

日露の將來(下)

(ノーウオエ ウレミヤ所載)

日露再戰の避け得べからざる理由は以上論述するが如し最近日露戰爭に於て我が國は敗衂に敗衂を重ねたり左れど是にて我が國古來の武勇は滅亡せるものと爲すべきか勿論然らざるなり最近の日露戰爭に於ても我等が確に勝利を得たりし遼陽戰の如き光榮ある事實を示し得るに非ずや是れ露國人も外國人も共に證明する所なり我等は我が軍が確に勝利を得て日本軍の退却を始めし時に我が軍の退却を始めて我等自ら勝利を轉して敗北と爲したるなり

過去の日露戰爭は我等何事をも識らず何事をも解せざりし不備に乘じて突然に開始せられたり我等は戰爭の勝算は平時に準備せらるべきものなりし事を忘却したりしなり加之戰爭の司令權は二人の不才無能者の手に委せられたりしなり然れども我が國は斯の如き困難なる事情の下に在りながらも若し我國にして戰地に對して故障なく完全に後備軍軍糧彈藥等を輸送し得たりしならんには斯くまでに敗衂を招かざりしなり我が敗戰の主要なる原因は確に交通の不備に在りしなり是に因りて日露の戰爭は不幸にも一千八百五十四年同五十五年の東方戰爭を追懷せしむる事となれり當年の戰爭に若し我は莫斯科とセバストーポル間に鐵道を有したりしならんにはセバストポールの堅城を陷落せしめざる可く近東に於て斯くも多年の壓迫を受けざりしなる可し

若し我は完全なる交通線を有して今後再び日本と干戈を交ふる事あらば我は必ず日本を擊破し得可きを確信する者なり然るに現今我等は斯の如き道路を有せざるなり余をして少しく此の問題に就きて一考せしめよ露國內地の其處此處に鐵道敷設の設計や着手せらるゝ者ありとの報知を新聞紙上に讀む毎に余輩は奇異の感なき能はず我等は果して斯の如き鐵道の必要ありや我等は此の內地の線路よりも更に一層緊要なる線路を要する者に非ざる無やを自問せざるを得ず日本人は能く赤手を以て我が堪察加と西比利亞の全北東岸を割き得るに非ずや該地方に我等は交通線を有せざる爲に一兵も一砲もまた麥粉一俵をも輸送するを得ざるに非ずや、然るに我が國は內地のチフロム市とツアレウオコクシヤイスク市間の連絡鐵道を敷設するに少からざる支出を爲し居るに非ずや我等は鐵道を有せざるもチフロム市を失ふの憂なく日本人の爲にツァ市を割るゝの憂ひなきを解せざるか然るに日本人は今や一兵を動かさずに我が領土を割き得る者あるに非ずや我等は樺太島に於ける如き侮辱を再び甘んぜんとするか

余は黒龍江鐵道に就きては云々せざる可し同鐵道の必要なるはいふまでもなき事にて其の敷設も幸ひに決定せられたりとの事なれば早晚敷設せらるゝ事なる可し然るに同鐵道に依りて多少安全なるを得べきはハバロフスク、浦鹽と其の近傍沿岸のみに過ぎず是より北方に二三百露里も離れし沿岸一帶の地は一朝若し日本人の手裡に歸する事あらば之を回復するを得ざる可し

我が國は此處に二條の鐵道を敷設せざる可らず即ちスレテンスクよりヤクトスクを經てオコツク海の北部沿岸に出で其處より南してロパーカ岬に到る四千露里乃至四千五百露里の線路なり斯の如き線路の工事は勿論經濟的に一露里平均六萬留位を以て敷設せざる可らざるを以て此の鐵道敷設費は總計約二億四千萬留乃至一億七千萬留を要す可し我が國は斯の如き些々たる資力を外國市場に於て得る能はざる程までに貧乏に非ざる可し斯の如きは我が歲計の十分の一に過ぎずして然かも最も急を要する支出の一なり然るに我等は全く之を忘却し居れる也

余は斯の如き支出を爲すの必要果してありやとの愚論を耳にせり彼等は須らく一考すべし我は再び日本と交戰する事あらば又もし我等は日本の爲に凡て奪取せらる可し若し我等は何の備ふる所なく我等は戰爭の爲めに是非必要なる鐵道をも有せずんば日本は實に再び我を襲ひて凡てを我より奪取す可し左れど我に若し鐵道あらば勝算我に在るや勿論なり

余は我が財政當局の機密に關知せざるを以て二億の歲出を外債に依らずして之を得るの道あるや否やを識らず然るに西比利亞鐵道は是非とも必要なるを以て若し我が領土の大部分を失はざらんと欲せば我が國は必ず此の二億四千萬乃至二億七千萬留を得ざる可からず

之を要するに莫大なる價値を有する我が領土を無防禦に放棄し留くよりも左まで必要ならざる鐵道の敷設の如きは之を後にしても可なるに非ずや東西南北何れの方面に於てなりとも我が領土を失ふは我が國民の恥なり斯の如き事にあまり重きを置かざる人士は須らく堪察加と西比利亞北東沿岸の富源を一考す可し若し我等にして今尚ほ玆に注意する處なくんば再び不備の侮なき能はざる可し

戰に止むを得ざる意外の事と言ひながら我が露國の鴨綠江奉天對馬海峽ポーツマス等に於て重ねたる失敗不幸は我が國民を誣ひ我が祖國の歴史を誣ひたる者なり若し今日我が政府の要路に立ち居る者、其の前任者の爲政に鑑みて其の經驗に悟る所なくんば我が祖國の歴史は戰爭を果して何んと評す可きや

暴徒討伐賞詞(二)

賞詞

歩兵第四九聯隊第七中隊(一小隊欠)

右は明治四十年渡韓以來歩兵第二十六旅團長小野寺少將の隷下に屬し黃州守備に服務中同年七月二十九日同地鎭衞隊の彈藥を押收すべき訓令を受け該大隊長以下の强硬なる態度にて拒絕せるを排除し約六萬發の彈藥を押收せり八月四日京城の變起り其騷擾の餘波を受け該隊內に不穩の情況あるを偵知するや機を失せず該隊の武器を押收し無事鎭衞隊を解散せしめたり爾來龍山、仁川、太田の守備に任し屢々討伐に從事し其功績少からず十一月二十五日、其主力を以て開城守備に其一部を以て長湍及兩合里の守備に任し屢次出動して該地附近の討伐に從事し功績あり其後開城守備隊の一部は十二月十八日より同二十八日に亘り平壤討伐隊と策應し長壽山附近の暴徒を攻擊し同十八日白川洞に於て約三十の賊を夜襲し其八を殪し同十九日青石頭市に於て約五十の賊を急襲して其十八を殪し又同二十三日疾風積雪を冒し眞資洞附近に賊を求め百二十を攻擊して其二十を殪したり又本年一月七日より開城守備隊は尺餘の積雪を踏破し十二日の久しき晝夜兼行九化場、朔寧兩合里、平山附近を掃蕩し功績あり又開城より分遣せし溫井院守備隊は一月九日約百五十の賊より包圍攻擊を受け尤も勇敢なる行動を以て賊を逆擊し潰亂せしめ其十數を死傷せしめたり又一月二十三日該守備隊は延安守備隊と白川附近に於て約五十の賊を殪せり二月十一日賊約百餘暗夜に乘して其長湍守備隊に來襲するや僅かに十に充たざる兵力を以て克く衆を防ぎ直に攻勢に移轉し突擊の後之れを潰亂せしめ其數十を死傷せしめたり尋て同隊は同月十九日九化場附近に出勤し沙尾川附近に於て我れを要擊せる約百五十の賊に遭遇し之れを攻擊して遂に突擊を敢行し其十五を殪せり同月二十一日開城守備隊は八日間賊を求めて勦討を持續したる後長湍洞附近に於て頗る頑强に抵抗を試みたる約九十の賊を攻擊し其標高四百六十四米突の峻嶮を越へて追擊し同月二十三日長湍守備隊の一部は沙也是附近に於て約五十の賊を攻擊し對戰一時三十分の後其十九を殪せり前記の如く中隊は渡韓以來間斷なく暴徒の掃蕩に從事し此間能く困苦缺乏に堪へ到る處適切なる計畫と猛烈果敢なる行動に依り賊を破ること前後十數回其功績顯著なるものと認む仍て賞詞を與ふ

明治四十一年三月六日

賞詞

歩兵第五十聯隊第二中隊 陸軍看護手 山崎滿次郎

右は明治四十年十一月二十五日成鏡南道甲山郡厚峙嶺に據れる賊を攻擊せる宮部中隊に屬し軍醫を補佐し戰線に生じたる數名の傷者に對し救護及應急處置に努めたる爲めに當時氣溫零下二十餘度積雪深く戰鬪三時間餘に亘りしも凍傷を免かる事を得又明治四十年十二月三十一日成鏡南道甲山部三水に於て賊を攻擊せる伊藤隊に屬し賊前五十乃至百五十米突の距離にある我散兵線に於ける傷者續出し地形平坦開闊之を隱蔽するの地物なく且敵彈雨注傷者の處置困難を極むるの時に方り軍醫の命を受け賊前百米突の地にある我が傷者の位置に匍進し應急の處置をなし尙該更かに五十米突前方にある傷者の位置に躍進中肩胛部に貫通銃創を受けしも敢て克く其任務を遂行し是が爲め寒威酷烈の裡に橫はる傷者をして凍傷凍死を免かれしむるを得たるは看護手の動作勇敢なるのみならず其職務を重ずる至誠の致す處にして特に衛生部員の模範となすに足る因て賞詞を與ふ

明治四十一年二月二十四日

二月中京城物價

(京城日本人商業會議所調)

品名	單位	二月	一月
▲穀物類及其原料			
白米 上	石	一六、五〇〇	一六、三〇〇
白米 中	同	一五、九〇〇	一五、八〇〇
白米 下	同	一五、四〇〇	一五、三〇〇
玄米 上	同	一〇、五〇〇	一〇、七〇〇
玄米 中	同	一〇、〇〇〇	一〇、一〇〇
玄米 下	同	九、八〇〇	九、五〇〇
大麥 上	同	三、八〇〇	三、八〇〇
大麥 並	同	三、五〇〇	三、五〇〇
小麥 上	石	七、二〇〇	七、二〇〇
小麥 並	同	六、七〇〇	六、七〇〇
小豆 上	同	九、二〇〇	八、六〇〇
小豆 並	同	八、五〇〇	八、一〇〇
大豆 上	同	六、八〇〇	七、〇〇〇
大豆 並	同	六、五〇〇	六、六〇〇
▲織物類及其原料			
三エッキス和軍人	反	七、一〇〇	七、三〇〇
洋金巾 三ビー和軍人	同	六、〇〇〇	六、二〇〇
三ビー鋼印	同	六、五〇〇	六、七〇〇
和金巾 三印	同	三九、三〇〇	三九、三〇〇
三エー印	同	四二、三〇〇	四二、三〇〇
晒金巾(高瀬金巾)	反	六、七五〇	六、七五〇
麻布 越中産上	匹	三、二五〇	三、二八〇
同 並	同	二、五〇〇	二、五九〇
紡績糸 △十六手	梱	五八、三〇〇	五九、〇〇〇
平十六手	同	五八、〇〇〇	五八、三〇〇
食料品の部			
日本酒 菊正宗(一九入)	樽	一九、五〇〇	一九、五〇〇
櫻正宗(一九入)	同	一九、五〇〇	一九、五〇〇
白鶴(四五入)	同	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇
澤之鶴(四五入)	同	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇
櫻魂(四五入)	同	一八、五〇〇	一八、五〇〇
東洋一(四五入)	同	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇
金牛(同)	同	一七、五〇〇	一七、五〇〇
麥酒 札幌四打入	箱	九、六五〇	九、八八〇
旭 同	同	九、八六五	九、八八〇
エビス 同	同	一〇、八〇〇	一〇、八〇〇
平の水	同	四、五〇〇	四、五〇〇
コンデンスミルク	同	三、六〇〇	三、六〇〇
洋酒 十年ウヰスキー	同	三、〇〇〇	三、〇〇〇
七年ウヰスキー	同	一七、五〇〇	一七、五〇〇
麥粉 東郷印	袋	二、六〇〇	二、六〇〇
エムピー	擔	九、二〇〇	九、一五〇
砂糖 エスアール(四温)	同	九、〇〇〇	九、〇五〇
エスエックス(三温半)	同	八、三〇〇	八、二〇〇
龜甲エー(四温)	同	九、〇〇〇	九、〇〇〇
罐詰 牛肉四打入	箱	一〇、二〇〇	一〇、〇〇〇
福神漬(同)	同	七、四〇〇	七、五〇〇
パイナップル(二ポンド入)	同	六、一〇〇	六、〇〇〇
鮭(四打入)	同	八、七〇〇	八、八〇〇
筍(同)	同	五、九〇〇	五、八〇〇
鶏(同)	同	四、〇〇〇	四、〇〇〇
松茸(同)	同	九、一〇〇	九、二〇〇
鰹(同)	同	八、八〇〇	八、八〇〇
鰯(同)	同	八、八〇〇	八、八〇〇

二月中京城各商店商況

△板硝子 目下弗々需用あれど阪地に於ける多數の停滯品ある爲め價格は稍々もすれば下向の模樣あれど愛一、二ヶ月を經過せば各方面に於ける建築工事の開始と共に賣行良好を見るならん(三田政商店)

△木材類 前月よりは賣行稍や好況なるも目下建築工事の休止と共に閑散の姿なり何れ三月に入れば諸工事の開始と共に追日好況を見るならんも目下値段に於ては一月と大差なし(伊東松支店)

△金物類 前同樣目下諸工事の休止と共に各品共賣行不況の有樣なり又相場に於ても變動なし然れども三月に入らば諸工事の開始に連れ好況を見るならん(釘本商店)

文苑

雪意　飯塚鵜涯

厲風鎭日度寒村。落葉如山欲壓門。歸鳥行雲相趁急。滿天雪意逼黃昏。

冬曉

殘星三五欲無痕。落月半山霜一村。疎影寒香早梅底。有人如鶴立柴門。

丁未除夜

清時幸作太平民。却笑江湖失路身。是酒是詩聊遣悶。有梅有竹不愁貧。人情誰辨眞交厲。世味早知酸與辛。回首一年今夜盡。明朝又過異邦春。

小說 紅のみだれ(九十五)

永井櫻園

清之助は正午近い頃まで結婚事件に就て山[illegible]つて來ると內には來客の在る樣子で養父の聲が手に取る如く聞ゆるゆゑ、表格子に手まで掛けたが又立留つて內の話聲に聽耳立てるのであつた、すると其の來客が以外にも師匠の清糸である事が聞馴れた談聲で知れたから扨はと忽ち胸に應へて尙は呼吸を殺して樣子如何にと窺ふのである。家內では勇五郎と清糸が頻に語らひつゝ清糸の聲で、

「一昨晚お歸りなすつたんですよ、で、今朝私の宅へお越しなすつて一日も早く婚禮を濟したいから此方さんの都合を伺つて結納の取遣も濟したり愈よと云ふ日も極めて下れいと仰やるんで、それで御相談に上つたんですが御都合は如何でせうかね。」

すると勇五郎は聲高に、

「いやモウ此方は御存じの通り都合も何もありませんで旦那の方の御都合次第何時でも宜うございます。」

「ですけれど縫ちやんも愈よとなればいろいろ準備や何彼の都合もあるもんですから一應お縫ちやんとも能く打合をしてそれから結納の日も極めたり御婚禮の日も極めた方が宜いと思ひますが縫ちやん何處かへ行きましたの。」

「はい、今朝から出掛けて未だ歸つて來ませんが何處に行きましたか分らないんですよ。」

「では斯うして貰ひませうか縫ちやんが歸つて來たら篤と御相談下すつて明日の正午頃までに私まで御返辭をお聞かせ下さるやうに……奈何でせう。」

「へゑ、へゑ、宜うござんすとも今にも歸つて來ましたら早速申聞せまして乾度明朝は伺う事に致します。」

「旦那の方でも待に待つて居らつしやるんだからどうかお願ひ申しますよ、[illegible]ですが縫ちやんが留守では爲やうがありませんね歸つたらちよつと其事も話して下さいまし、いづれ今晚席の方で會うには會ひますけれど……。」

「歸つたら云ひ聞かせるには聞かせますがどうか席の事なんかお師匠の宜からうやうに。」

云ひかけたが急に氣の注いたやう、

「ですが急に婚禮でもするやうになると寄席の方へ出る理には行くまいと思つてますが……。」

と清糸の顏を見る。

「眞箇ですね、ではまづ其話は私が會つた上で話す事に爲ませう。」

「ではどうぞ然うなすつて下さい。」

兩個の話談が一段落着いたので戶外に聽いて居た清之助は音せぬやうに何れへか出で往つたがやがて清糸が歸つて往くと間もなく歸つて來た。

果が運命こそ如何に成行くであらう。



韓國經綸問答

京城新報

一客あり記者を詰て曰く、內地に於ける新聞紙は統監政治を讃美せざるも甚だしく攻擊せず、然るに足下は徹頭徹尾論難して餘蘊なし、伊藤統監の施設素より失政なきに非らず、然れども皇太子誘導の如きは慥に一の成功とせざる可らずと、記者答て曰く、皇太子の誘導を以て成功となすが抑も誤り也、內地の新聞が之を以て成功の如く謳歌したるが誤りなり、之に依て見ても日本人の多數が如何に韓國の事情に通せざるかを推知するに足らむ、皇太子の誘導が日韓の關係に如何なる功ありや、之が爲に韓國民は日本に好意を表せりや、地方の暴徒は之が爲に鎭撫せしや、非らず、韓國民は却て反日本的の傾向を來たせり、さらば其成功とは何物を指す乎、余輩が屢々言說する如く、韓皇室と韓國民の關係は、日本の皇室と日本臣民との關係の如くならず、韓國民は其皇室を尊崇せず、況や其治者が李氏たり金氏たるを問はざる也、何人にても善政を布くものに感謝を表するのみ、伊藤公が之を察せずして重きを皇室に置きたるが抑もの間違也、其根幹既に誤る、枝葉謬たざるを得んや、夫れ統監府設置以來何物を贏ち得たるや、殆ど失政のみを以て蔽はるゝに非らずや、余輩は論難攻擊せざらむとするも豈夫れ得べけんやと、客亦た曰く、粗ぼ其意を得たり、然れども批評は易し、實行は難き也、局に當て之を行ふ容易の事に非らず、若し足下をして局に當らしめば如何にして統治の實蹟を擧ぐ可きや、記者曰く余輩をして統監たらしめば、既に好成蹟を擧げ得たるを思ふ、遲くとも密使事件の當時に於て合併を斷行したりき、之が斷行を爲すに於て四圍の情勢は少しも之を沮むものあらざりき、列國は其際暗に夫を待ち設けたるものゝ如く、所謂捨名取實なる好辭令によりて成れる協約は却て案外なりきと云ふ、客曰く、彼の協約にてさへ排日黨盛に起る、況や合併するに於てはと、記者曰く、否之れ皮想の觀也、眞個の良民は前にも語る如く、合併たると保護たるとを問はず、望む所は善政也、排日暴徒の蜂起は非似愛國者なるものゝ煽動に依る、余輩が統監として之を斷行するに於ては、豫め之か準備として非似愛國者、非似獨立黨なる煽動者を遠く檢擧し其隙に乘せざらしむ、而して一個師團の兵を地方に簡派するに於ては、今日の如く暴徒は起らざる也、此等の煽動者は今に知らぬ顏して京城に橫行す、取りも直さず暴徒の參謀本部は京城にあり、燈臺下暗し、韓國の事情に通ずるものゝ眼より之を見れば分明なりと雖も、皮想の觀察者には到底分るまじ、斯くするに於ては合併も保護も圓滿に行はるゝを得べし、余輩は今に於ても合併を主唱するもの也、捨名取實なる姑息的政略は決して韓國に行はるゝものに非らず、寧ろ男らしく合併するか聯邦組織となすかに決定せざる可らず、總てのこと最大多數者の最大幸福を標準とせざる可らず、保護統治は却て韓國民最大多數の幸福にあらず、合併は最大多數の幸福也、保護統治は隔靴搔痒の感あり、合併は恩澤を直接に感ぜしむ、韓國民の多數所謂良民の幸福を謀るは、普く善政を布き自由安寧に職分に勵精せしむるにあり、政略よりするも人道よりするも之に外ならず、此旨趣を意の如く爲さんには合併を以て全且つ捷徑なりとす、韓國民の多數は如何なる高價を拂ふも獨立の美名に醉はんとするものにあらず、苟も善政ならば其國體の如何を問はざる也、此見地より斷案を下さば合併論者も保護論者も誤なからむと、客亦た曰く、足下の如く見解せば對韓經營難事にあらずと、記者曰く、然り難事にあらず、此見易き見解を當局者解する能はず、爲に機を失し、或は姑息的政略を試み、唯失敗に失敗を重ぬるのみ、客亦た默して嘆息するのみ、

●理事官の[illegible] 仁川信夫理事官は來十九日光濟號に便乘し[illegible]島を經て群山に至り公州方面の視察をなすべしと

●大浦通譯官出港 仁川理事廳通譯官の[illegible]仁川府方面視察の途に就く

北京電報

▲英公使の仲裁を拒絶す

北京政府は駐淸英國公使に向ひ長丸抑留事件の仲裁を依頼せるより英國公使は我林公使を訪ひ其意向を糺したるに林公使は貴下の高意は謝するも本件は貴下を煩はすほどのことにあらずと拒絶せり(十四日發)

東京電報

▲淸商連の意向

南淸の淸商連は長丸に對する淸國政府の處理を以て正當なりとし橫濱神戶大阪長崎等にある淸商等に向つて檄を飛ばし來り內外相應じて同一行動を執らんとす(十四日發)

▲公布豫算額

議會の協贊を經て公布せる總豫算は歲入總數六億千一百〇四萬三千〇四十八圓歲出總額六億一千五百九十五萬八千三百三十九圓なり(十四日發)

各地電報

▲搜索隊の活動

當地警察署より匪徒搜索に向ひたる日巡查二名韓巡査四名の一行は海州郡『カサボウ』五里にて匪徒一名を捕縛し『コウヽウ』にて匪徒中隊長吳仲七を殪し一名に負傷せしめ銅峴にて匪徒一名を捕縛せり(十三日海州發)

▲巡査襲殺さる

當警察署管內三水駐在所韓人巡査二名高巨里に宿泊中一昨夜暴徒三十名に襲れ一名殺され一名は免れたり(十三日咸興發)

雜報

●太皇帝の臨御 太皇帝及嚴妃は十三日午後七時〇五分重明門より惇德殿の夜會に臨御あらせられ翌午前一時同上門より還御相成りたり

●小林氏赴任 全羅南道光州郡事務官小林氏は[illegible]

公人私人

▲大原壽次郎 陸軍憲兵(大尉) 十三日の夜旭旅館に投宿せり

●韓太子修學陪觀 學部大臣李載崐氏は目下東京留學中なる韓國太子の修學陪觀として日本に出向を命ぜられ明十六日午前八時五十分の京釜線直通列車に搭し出發する筈なり

●棉花栽培所官制 昨日の官報にて勅令第十二號を以て臨時棉花栽培所官制を裁可公布せられたり其要項は棉花栽培所は農商工部大臣の管理に屬し棉花栽培の改良指導及び棉種子の配付に關する事務を掌り其職員は所長、技師一人、技手二十八人、書記一人を置き頒布の日より施行せり

●種苗場、林業事務所官制 勅令十三號同十四號を以て種苗場及び林業事務所官制を裁可公布されたり各種苗場には場長及び技手書記等を置き種子種苗の育成及び配布の事務を掌らしめ林業事務所には所長技師四人主事技手を置き國有森林山野の造林事業及び調査に關する事務を掌らしむと其林業事務所の所在地は左の如し

京城林業事務所 京畿漢城府
平壤林業事務所 平安南道平壤
水原林業事務所 京畿水原邑
大邱林業事務所 慶尙北道大邱

●戶籍規則起草 內部民籍課に於ては民籍に關する制度を改良せんとて研究中なりとのことなりしが目下同規則を起草し居れりと云ふ

六道路改修決定

韓國政府は地方騷擾鎭定の一策として地方の遊民に職を與ふるため地方工事を起すの議ありしが愈々今回海州龍頭浦間安州寧邊間義州新義州間晉州馬山浦間松井里公州間水原利川間の六道路改修の工事を起す事に決定し目下內部土木局に於て設計調査中なるが此の調査終了次第六道路同時に着手する筈なりと云ふ

軍司令部會議

軍司令部樓上會議室に於ては昨十四日も尙引續き午後一時より參謀會議を開きたり今其議題は聞くを得ざるも多分暴徒速滅策に關するものなるべしと傳ふるものあり

●暴徒掃鎭費增額 暴徒掃鎭費增額三萬二千三百六十六圓を豫備金中より支出の件十二日裁可せらる

農商工部の水產調査(續)

二十、漁業の改良擴張を圖るに伴ひ漁村浦若くは漁業者其他に於て設備を要すべき種目及び其方法並に費用の概算
廿一、韓人の新たに漁業を營まんとする場合に於ける行政手續
廿二、其の他必要と認むる事項

丙、一、水產物製造業の種別及び其の製造業者の數
二、製造場の位置及び其の組織並に設備用點用地面積
三、製造品名及び其の原料幷に製造概法
四、產額價格及び販賣機關販賣方法販賣先幷に販賣に關する慣行
五、製造原料買收方法及び原料の價格と製品價格との差違
六、製造業者の資金融通に關する狀態
七、現在の製造品又は製造せざる水產物にして將來改良擴張を圖り有利の認めある事業の種類原料の關係及び場所其他經營方法
八、製造業の改良擴張を圖るに伴ひ漁村浦若くは製造業者其の他に於て設備を要すべき種目及び其方法並に費用の概算

丁、一、漁村浦其他に於ける養殖業調査
養殖に適すべき河湖池沼の位置面積水面又は周圍の狀況及び附近一帶の地勢
二、養殖し得べき水產物の種類又は業務の種別
三、水深及び水位の變化(潮汐干滿の狀況又は乾涸及漲溢の有無等)
四、注入又は排出する水流の狀況又は湧水の有無
五、水質、水溫、濃度又は淸濁透度
六、水結の有無(氷の厚さ幷に其の凍結及び融解の時期)
七、自然に生產せる動植物の種類及び其の狀態幷に集散の有無
八、養殖場に充つべき場所の所有主又は使用權利者の有無其他使用上の慣行若くは注意すべき要點
九、事業設計及び其の經營方法幷に收支の見込
十、養殖場と漁業又は他の事業との關係若くは慣習及び公益上の利害
十一、行政上より保護取締をなす必要の有無
十二、其の他必要と認むる事項

戊、一、乙號の漁業調査に關する要項は本號にも準用調查する事
二、船舶定繫所に充つべき港灣の位置水深廣袤周圍の形勢防風波に對する得失船舶繫留及び其の出入の便否幷に移住漁業者の住所及び販賣地との聯絡難易
三、根據地と漁場との關係
四、移住漁業者の從事するに適當なる漁業の種類及び方法
五、漁獲物の處理及び販賣上に於ける便否且販賣先きとの距離
六、移住漁業者の住居に充つべき家屋の在否若くは相當の家屋を建設し得る餘地の有無廣袤並に其の土地の廣袤に依り移住者を容るべき戶數人口の程度
七、製造地及び網乾場に充て得べき餘地の有無及び其の廣袤
八、移住漁業者が終年其の營業を繼續し得ざる場合に於ける漁民の副業種類殊に半漁半農は漁民の永住を期する上には必要なる施設に付其の作業せしめ得へき田畑の廣袤農業の種類及び其の土地を附與すべき方法並に其の土地賣買並に價格
九、移住業者に供給し得べき飮料水の有無及び飮料水の分量により移住者を容るべき戶數人口の程度
十、薪炭其他日用品需用の便否及び其の供給設備をなすに便宜を有する土地柄なるや否やの狀況
十一、漁業の成功を速かならしめ且移民の永住を期する一方として移民の配置は其の本土の土地氣候生活の狀態漁業の種類方法に近邇し又は適應し得べき土地柄を撰定し奬勵すこの必要あるに付之に關する調査
十二、移住地と國防上との利害關係に對する觀察
十三、根據地に於ける韓人經營の漁業の種類方法場所及び其の場所使用の權利又は慣行を調查し移住漁業者の營むべき漁業との關係
十四、根據地經營に伴ひ其の漁業者又は共同的組織若くは行政機關に依りて特別なる事業の施設を要し又は保護取締をなすべき必要の事項
十五、其の他必要と認むる事項

以上の各項を通覽するときは右の調査を基礎として農商工部が制定せんとする漁業法の內容を窺知するを得べく同時に由來諸般の調查材料に乏しき韓國に於て此の視察の結果が當局及び水產事業に手を下さんとする者に多大の參考を與ふるを知る可し

●稅關吏の出張 群山稅關支署鑑定官補黑川氏及び仁川稅關主事熊代氏は統計事務打合せの爲め十六日上京し稅關局に出張する筈なり

●十三日參內者 昌德宮五十六人(內婦人十六人)重なるは總理大臣李完用、宮內大臣李允用、軍部大臣李秉武、學部大臣李載崐、侍從院卿閔丙奭、同副卿李會九、[illegible]長金珏鉉、陪從武官張然昌、承寧府侍從金德鎭、閔泳一、[illegible]典醫洪在韓、掌膳金相昱、德壽宮計九十九人(內婦人四十九人)重なるは義親王、學部大臣李載崐、宮內大臣李允用、法部大臣趙重應、侍從院卿閔丙奭、承寧府總管趙民熙、同侍從長金春熙、同掌膳金相昱、侍[illegible]

●各郡守の不和 突山、興陽、樂安の諸郡にては郡守及主事が協力して自衛團の組織に奔走盡力し居れるも驪州郡守宋在基は排日主義を以て自衛團を歡迎せず一部人民も又自衛團の組織を少しも希望し居らずと云ふ

●秘密運動者の捕縛 三淸洞附近に居住せる金奎興李範圭の兩人は十三日仁川に於て捕縛せられたり其理由は何か秘密運動の爲め上海に渡航せんとしたるものなりと云ふ

●償還金支出 ロンドン商會償還金十五萬圓を豫備金中より支出の件十二日裁可せらる

暴徒討伐情報(軍司令部着)

△咸昌守備隊報告 慶尙北道咸昌守備隊より出せる討伐隊は三月六日同地西北方約八里林白坊の西南方約二里半に在る新村附近に於て三四十名の賊に逢遇し巧に之に接近して急襲せし結果其二十七を殪し五を傷け殆んど全滅に至らしむ火繩銃二十二箇獲す

△鏡城守備隊報告 三月十二日鏡城に在る韓民約百名一進會事務所に闖入し同所備付の器物を破壞し且つ事務員に暴行を敢てせんとしたるも急を聞き逸早く駈付け來れる警官の制止によりて漸く大事に至らず退散したるが今其原因なりと云ふを聞くに一進會員たる新任觀察使の着任前先づ同會員に一大打擊を與へんとせるものゝ如しと

火災保險率と明治

保險料率値上に關し仁川會議所より同盟各保險會社に其引下げを交涉したるに對し明治火災より左の如き文書を以て其交涉に應ずべからざるを回答し來れり

拜復二月廿一日付の御書面を以て貴地に於ける火災保險料率引上の件に關し縷々御申越の趣拜承致候當會社が韓國に營業を開始致候てより既に十數年の久しきに亘り候も營業の成績は常に收支相償はざるの狀態に有之畢竟するに保險業者として尙今後從來の結果を甘んじて永續することは到底不可能の事に候を以て先般韓國各地に於ける保險料率引上を行ひ從つて貴地に於ける料率を引上候次第に候間此段御了承被下度右回答申上候

三月九日 明治火災保險會社

●韓南滊船の寄港地 韓國政府より三ヶ年九千圓の補助を交附せらるべき韓南滊船の航路寄港を聞くに馬山、統營、辛浦、左水營、羅老島、莞島、碧波津、木浦、羣山、迎日灣の十ヶ所なりと

仁川紀念祭相談會

豫報の如く不日擧行さるべき開港二十五年祭に就き昨日午後四時より民團役所樓上に加來、奧田、桑野、田中佐、稻田、藤村、河野の諸議員相會して凝議する所あるか尙は近々會長並に實行委員を選擧すべきと云ふ

●仁川第二公園委員會 昨十六日午後三時より仁川第二公園委員會を開催する筈

●仁川大神宮例祭 仁川に於ては來る五月十一日大神宮例祭を施行し今後每年神輿渡御式を擧行する筈にして海老原宮司は諸儀式調査の爲め本日東京、京都、三重方面[illegible]

●小宮宮內次官の晩餐會 同次官は昨夜六時より宮內大臣以下宮內府の各高等官を花月に招待す

●兩學會懇親會 西北學會及畿湖興學會にては親睦の意を表する爲め本日懇親會を催すべしと

●標準時の實行 韓國本位を以て事に當れる統監府が來る四月一日より日本時間を廢し韓國の標準時に倣ふことゝし爲せるは今更ら異樣の感も起らざることとなるが聞く所に依れば鐵道管理局其他諸官衙に於ても是れに倣ふことゝなれる由なれば即ち一般に實行せらるゝことゝなるべく左すれば伊藤統監も大に滿足せらるゝならんと云ふ

●板倉氏留任問題 第五八銀行仁川支店長板倉政次郎氏辭任につき仁川商人中從來同行に緣故ありしもの百餘名連署の上同氏及目下在京中なる本店高橋支配人に留任の運動中なるが一昨日右の代表者として富田耕司、頴原修一郎氏が上京高橋氏に面談すべき筈ありしも高橋氏は運動者の心意を諒として自身下仁すべきに依り上京するに及ばずとの通知ありたれは右兩氏は上京を見合せ昨日高橋氏の下仁を待ち居りしも同氏の都合により下仁せさりしを以て未た留任問題は何れとも決定せずといふ因に今回の板倉氏辭任せるは氏一身の都合の外他に種々纏綿せる事情あれば留任到底望むべからざるべしと某氏は談れり

●邦人韓官任命 十二日左の通り任命ありたり

任法部書記官敍奏任官二等 神野忠武
任裁判長書記長敍奏任官三等 安田慶二郎
任判事敍勅任官一等 田中正身
任檢事敍勅任官一等 城數馬
任判事敍勅任官二等 世古祐次郎
任檢事敍勅任官三等 中村竹藏
補京城控訴院長 判事 中川一介
補京城控訴院檢事長 城數馬

●學部大臣の隨行員 別項記載の如く學部大臣は皇太子殿下修學の陪觀を命ぜられ明後日出發日本に向ふ筈なるが隨行員は學部編輯局長魚允迪氏及び澁谷同事務官に決定するなるべし

奇話集 其の二

大王の鴉

扶桑の東に大王あり一日臣を召して申さるゝ樣我邦の鴉はどうして色が鼠色で啼聲がクークーと云ふのであるか、どうかして色の黑くてカーカーと啼くやうにしたい、臣僚百萬拜して白さく鴉のクークーと啼き色の鼠色に見ゆるは大王殿下御一人の御眼御耳に候百姓皆なカーカーと聞き色黑く見ゆ候王怒らせ玉ふこと大方ならず官報局長を召して爾來官報に於て鴉の聲をクークーと記し其色を鼠色なりと錄せよと命じ玉ふ

野史曰く日本官吏の任用日々官報紙上に揭載せらるゝを見て策士曰く斯くては韓人益々日人の官吏登用の多きを惡み暴徒愈々猖獗ならん、何ぞ策士の計、大王の鴉に於けるに似たる

李允用の失策

過日某將軍が德壽宮を訪問せしとき太皇帝は李宮相を陪席せしめんと召されたれども李の來ること遲かりしかば手近に居合せたる閔內藏院卿を陪席せしめて謁見の事を了へたり、程經て李允用昇殿したるが此時は已に召用の果たる後なりければ彼は手持無沙汰に何か呟きつゝ謁見前に將軍を接待したる一室に入りたるに茲には酒煙草茶菓等卓上に陳列しありたりければ李は高禮式官を呼付け威丈け高になりて叱して曰く余東京に在るの日數次宮內省に行きたるも一回とて何の饗應に預りたることなし而るに韓宮廷に於ては謁見の爲來る日本人に饗應するは無用の事なり目下宮內府冗費節減の場合なれば以後は饗應無用なりと言渡したるに高禮式官は嚴然として李に向て曰く本日將軍接待に供したる品々は皆拙者自身の費用にて調ひたるものなり此後とも斯る事迄閣下の干涉御無用なりと言放ちければ道がの李允用も一言半句返す言葉もなくすごすご德壽宮を引下りたりと云ふ

近事片々

▲京城 日報殖民地の風氣は面白く讀まる臺灣に比し北海道に較ぶ處余り手前味噌也
▲統監 府員豪遊風紀の壞敗は關東都督府滿鐵連中と幷稱せらる何風紀を誇る可きや
▲風紀 振肅を呼ぶ必要を痛切に感ずる時京城日報子此論あり樂觀も余り程度を過ぐ
▲賄賂 請托耳を以て風氣を云々す可らず分の別らぬ小間使醜業婦官舍出入壞敗の基
▲是等 の點より京城の天地を見を臺灣北海道よりも以て腐敗せざるか須く反省せよ
▲實踐 の擧らざる法學生徒の稽古の如く法令の製造に忙きも他に類例なからむ呵々
▲秘苑 園遊會とか開催さるゝか其委員會にて軍幕買借論盛 起て容易に決せず失笑
▲議論 の要點は統監府の軍幕を借るか木綿百餘疋購ふか韓路商人に寄附させるか也
▲韓人 の仕事は萬事如斯何も今更園遊會の必要もなからむ統監府宴會政略の影響也
▲忠淸 道恩津にて賊魁捕はる訊問すれば京城に護送せよ伊藤統監面前に陳述せんと
▲賊魁 昂然として曰く爾等に一言を語らじ伊藤に面して其蒙を啓しめんと豪語せり
▲伊藤 は韓國本位我宿志を語るに足る汝等鼠輩に言はずと暴徒迄が韓國本位を悟く
▲米國 艦隊擧て東航す其隙に乘じて獨逸はヴェ子ヅラに得意の火事盜的外交を試む
▲獨帝 の亦しても小細工能く御氣が付くル大統領の一喝に逢ひて辨疏せずんば幸也
▲辰丸 事件優柔不斷時機を失し第三者容喙云々の說華盛頓に起る速決せよ寸前尺魔
▲第三 者の容喙を云爲する如き問題に非らず退讓主義の外交は事每に屁間斗りする
▲外交 の中心は今は華盛頓也高平型使にては覺束なし誰かと交替せしむるが肝要也

●理事官の巡視 ▲仁川信夫理事官は來十九日光濟號に便乘し於靑島を經て群山に至り公州方面の巡視をなすべしといふ

●大浦通譯官出港 仁川理事廳通譯官の大浦氏は本日出發安山郡下、仁川府方面視察の途に就く

●小林氏赴任 全羅南道光州郡事務官小林氏は本日赴任す

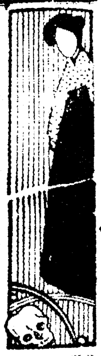
公人私人

▲大原壽次郞(陸軍憲兵大尉) 十三日の夜旭旅館に投宿せり

●稅關吏の出張 群山稅關支署鑑定官補黒川氏及び仁川稅關主事熊代氏は統計事務打合せの爲め十六日上京稅關に出張する筈なり

●十三日參內者 昌德宮五十八人(內婦人十六人)重なるは總理大臣李完用、宮內大臣李允用、軍部大臣李秉武、學部大臣李載崑、侍從院卿閔丙奭、同副卿李會九、奎章院卿李埈鎔、侍從武官長金玨鉉、陪從武官張然昌、承寧府侍從金德鎭、同典醫洪在倬、掌禮金相琓、德壽宮計九十九人(內婦人四十九人)重なるは義親王、學部大臣李載崑、法部大臣趙重應、侍從院卿閔丙奭、承寧府總管趙民熙、同侍從長金春熙、同掌禮金相琓、侍

●仁川大神宮例祭 仁川に於ては來る五月十一日大神宮例祭を施行し今後毎年神輿渡御式を擧行する筈にして海老原宮司は諸儀式調査の爲め本日東京、京都、三重方面へ出張す



坡州郡泉峴面の交戰

去る九日午前十一時頃坡州郡泉峴面長防里及び同面東幕里に多數の匪徒集合し邑內の各官衙及民家を襲はんとすとの風說ありしより同郡憲兵隊にては早速偵察隊を派し狀況を探らしめしに案の如く賊徒は長防里の南北各高地に屯集し居る事を確めたるを以て直ちに之が討伐に向ひたるに彼等は同里の山中に奧深く潛伏せしを以て我は山麓の西方千五百米突の地點に到り之を襲はんとせしとき同里の南方高地に見張を爲し居りし賊徒の一隊之を見るや否や銃聲を以て合圖をなせしに賊徒は一時に山中より出現し來り猛烈なる射擊を我に加へしかば我は極力之と交戰せしに彼等は約三十分の後漸く退却し始めしを以て我は之を追擊し一名を殪せり而して彼等は廣灘面發郞里方面へ逃走せる模樣なるより我は之を生擒せんとするの目的にて尙も之を追擊せしに彼等は中途より引き返へし我に抵抗せしかば我は殆戰苦鬪約三十分にして之を擊退し其の二名を負傷せしめたり賊數約百名許りなり

痘苗需用の狀況

本年全國各地痘病の流行烈しき徵あり內部警務局は各警察に訓令して一般に強制種痘をなさしめしが之に要する痘苗は大韓醫院にて製造したるものを無代にて頒布したり其需用の狀態は左表の如し但し一具は五人分なり

平壤警察署	二、〇〇〇	元山警察署	四〇〇
錦山	三〇〇	水原	一、〇〇〇
春川	一〇〇	開城	四〇〇
釜山	二五〇	仁川	一〇〇
德川	三〇〇	金城	二〇〇
鏡城	五〇〇	淸州	一〇〇
蔚山	一、三九四	北靑	五〇〇
鎭南浦	五〇〇	南原	五〇〇
咸興	一、〇〇〇	大邱	三〇〇
龍巖浦	四〇〇	慶州	八〇〇
成川	四二〇	城津	一二〇
寧邊	三〇〇	晋州	三〇〇
忠州	二〇〇	海州	五〇
馬山	一四〇	光州	三〇〇
會寧	二〇〇	群山	一、〇〇〇
全州	二、〇〇〇	楚山	三〇〇
洪州	六〇	計	一五、四五四

尙今後も請求に應じて發送する筈なるが全國警察署中未請求の箇所は公州木浦新義州の三署なりと云ふ因みに終覲蘊は目下尙種痘施行中にして右の表中に計上せず

各地天然痘流行の狀況

本年初發以來の韓國各地天然痘流行の狀態は左表の如し

忠州警察署管內	二八人	公州警察署管內	三八人
馬山同	一人	釜山同	二五人
元山同	二人	海州同	一人
全州同	一〇人	群山同	一人
大邱同	五人	城津同	一人
寧邊同	三十人	新義州同	一人
計	一〇八人		

右の內既に全治したる者十九人死亡せし者十五人にして餘は治療中なり而して右は警察署に屆出でたる數にして此の他隱蔽せる者多數ある見込なり

●仁川の種痘者 過日仁川に於て施行されたる春季種痘に接種せる人數は未曾有の數に上れりこれを男女年齡別にすれば如左

	男	女	計
一年未滿	九九	九〇	一八九
七年未滿	一三一	二四一	三七二
十四年未滿	四七一	四五一	九二二
十四年以上	五八八	九四四	一五三二
合計	一二八九	一七二六	三〇一五

●鯡の輸入 昨年中に仁川及び京城に輸入せられたるニシンは凡て北海道產なりしが本年に入りて仁川水產會社が神戶より米國產を輸入したるに韓人は非常に之れを愛し益々其の需用を增加する傾向あり先月より今日まで仁川に輸入されたるものは三百個(一個二百八十斤約二十五圓)ありたるが來る十七日に仁川に入港すべき九州丸は約三百個價格約七千圓を輸入するとのことにて其の捌地は、海州、新幕、平壤、水原等なりしと云ふ

●匪徒の强盜 去七日新昌郡大東面昌德里(邑內より南方約二十丁)韓人文星方に賊徒五名闖入し主人を强迫して金八圓其他雜品數點を掠奪し去りたる旨同里の自衛團員某より新昌巡査派出所へ訴へ出でしかば巡査は時を移さず出張せしに其の時は既に賊は何れへか逃走せし後なりしと

奇怪錄

藝者と警察

京城本町場末や仁川佛國敎會下邊の飲食店に居る賣春婦は常に警八風に襲はれるので戰々恟々として居る所が奇怪にも藝者連の賣淫は秘密の公とあつて警察官御自身が現を拔かして涎を垂らして通る連合もあるか京仁開闢以來藝者が賣淫の廉で上げられたものは一人もない幾ら日本警察だなんど威張つても此所に至つてはヨボ巡査にも劣る數等だわい

●家廟神佛を燒棄す 閔族の一門なる前參判閔泳雨は近頃如何に感ずる所ありしか耶蘇敎に歸依し殆んど同敎の爲めに身命を捧げんとの熱心にて同信徒となりしが今回其家に祠りし廟及び祭神を打壞し之を燒棄てたるのみならず同敎以外の神佛像に對しては一切之を拜せざることゝしたりと

●虎の足跡と夜警 昌德宮內秘苑及び玉流泉附近に猛虎現はれ其足跡を殘して何れへか去りたりとのことは過日の紙上に記せしことありしが同宮內夜警の巡査は之を見て大に怖れを抱き單獨に巡回しては萬一虎の爲めに二つなき生命を取られてはならぬと同苑守直の苑丁二名を同行することゝし同行の苑丁には巡査の劍を帶はしめ大に警戒せしめ居れりとのことなり

●淫賣屋の亭主拘留せらる 當地小公洞の飲食店太陽亭が雇人を虐待したることは一昨日の紙上に客報せしが今其の後報を傳へんに同亭の主人は佐藤泰利といひ妻のシゲの名義を以て飲食店を營業し三名の怪しき女を酌婦の名の下に雇ひ入れて淫賣を爲さしめ居れるものなるが其の雇人に福岡縣の生れなる神谷チヨ(二十)なる者あり給金引當として金六拾五圓を前貸なし又病氣の時に七拾五圓を立替にて都合百四拾圓の貸金ありといへどチヨは既に數月間勤務し病中の立替金といへるも藥代の僅かに拾圓ばかりにて其の他は斷料を高價に見積り七拾五圓などゝ唱へるものなれど纖弱き女の身にては談判も出來ず然ればとて亭主の言ふまゝに爲し居れば今後幾年を經るとも身の浮む瀨なきより去月二十八日無斷にて同家を出で本町七丁目に一家を借り住へりしを太陽亭にては所々搜索の結果去る十一日其の住家を尋ねつけ同日午後四時頃無理無体に連れ歸り已れ憎き畜生尼めと手拳を以てチヨの面部を亂打し右上下眼瞼及び右顴骨部に浮腫下眼瞼に線狀の皮下溢血を起し疾病休業五日に至るべき創傷を負はしめ其の晚は粥二杯を喰はせしのみにて尙ほ逃走を防ぐ爲に夜半過ぎに同亭の裏二階なる三疊の室に押し込め仲居永田サミに命じ出入口へ外より錠を下さしめたるよりチヨは如何に成行くべきかと憂慮し遂に意を決して其の室に窓のありしを幸ひにこれを引破り此所より窃かに脫して南部警察署に驅け込み保護を願ひ出たるより警察署にては泰利を呼出し向後を戒めんと說諭を試みしに泰利は頑强にも前非を後悔せず酌婦等は牛馬の如きものにて口舌を以て指揮すべきものにあらず腕力を加ふるは雇主の權利の如く主張し到底說諭位にては後悔すべきやうもなきより遂に醫師をしてチヨの傷所を診斷せしめ泰利は逃亡も仕兼ねまじき形狀あるより其まゝ抑留して檢事に交付し檢事は昨日起訴の手續をなしたりといふ因に太陽亭にては亭主は拘留せられシカも其夜警吏が同事件取調の爲め同亭に出張したるに折しも同亭の酌婦本田キヨ(十七)といへるが韓人崔春植に一夜一圓の約束にて賣春し居れるを發見したりといへるが妻なるシゲの大膽にもまた驚くべきなり

●指環泥棒 大分縣西崎郡薄野村の生れなる玉井健一方の溫突に住み居りし山田素直事山田武美(五十)は三十七八年の戰役に從軍し勳八等瑞寶章及び從軍紀章をも受領し居れるものなるが去る三十九年三月頃より客年四月迄當地本町五丁目酒商酒井政平方に雇はれ中十數回に同家の酒切手(二百圓)を僞造し得意先に販賣し其の得たる金は其の都度遊興費に消費し遂に發覺して解雇せられ去年三月五日午後二時頃兼て面識ある御成町一丁目下平米松方に至り其の不在に乘じ大部の抽斗にありたる金指環二個(代三十四圓)を窃取し京義線新義州地方に身を潛め窃取せし指環を賣却し純金にあらざるものと思ひ去る十一日歸京し本町七丁目の玉井健一方の溫突一間を借り受けこれに住み米松方に郵便はがきを贈つて招き置き先きに窃取したる指環を出して前非を後悔したるものゝ如く裝ひ謝罪したるも米松が盜難に罹りし當時既に武美の所爲なること明かとなり居りて其の返却したるも純金にあらずと思ひてのことなれば今更ら甲斐なく其筋へ引立てられたり

●醉漢蝸甫屋をあらす 去る十三日の夜明治町一丁目の蝸甫屋季景文方に一醉漢來り亂暴をなす旨を以て取押方を巡邏中の後藤巡査に訴へ出たるにより現場に臨み見れば山口縣平民當時踏町川野峰太郎方の豆腐賣子阿波井兼吉(三十)なる者が醉狂して景文を毆打し又器物を毀棄し尙ほ亂暴を爲しつゝありしを以て直ちに取押へ警察署へ連れ歸りたり

●金と道具を窃取さる 市內米倉町菓子商淸水伊三郎方にては去る十二日午後七時頃嚴重に戶締をして一同近所の南門湯に入浴に赴き八時頃歸宅せしに何うやら其の邊が取り散らけそれに戶締を爲し置きし筈の錠前が外れ居るにぞもしも留守中に窃盜にても這入りしものにてはあらぬかと店の諸道具やら押入れの行李等を取りしらべ見しに案の通り菓子製造器械煎餅形五個及び韓貨約三圓紛失し居りしかば早速其旨西部警察署に屆け出でしが犯人は平素同家に出入し居る韓人金壽萬なること判明せしより同人は直ちに逮捕せられたり

●靴泥棒捕へらる 去る十三日の午後十時頃倉野巡査部長が長谷川町二丁目を浮浪者視察の爲め通行中同町韓人の飲食店前に於て一韓人が靴を持ち飲食店主人に向ひこれを買ひ呉れよといひ主人が不用なりといへる傍より一韓人が買受けんとて靴を熟視するを認め若しや窃盜品にてはなきやと其の持主に向つて出所を取調べたる處持主は靴を打ち捨て逃げ去らんとせしより直ちに追跡して取押へたり此の者は當地西部小貞洞盧仁朱(三十)といふ者なりしと

●淸國人出火 去る十三日午後十一時過ぎ小公洞の支那人中文錄より出火せしが早くも家人の氣付きしために大事に至らざりし原因は竈の火より起りしもの〻如しと

本日の精神界

▲メソヂスト敎會 旭町二丁目名古屋城內日本メソヂスト敎會に於ては本日午前十一時の禮式を行ひ同十一時及び午後七時三十分の兩度左の說敎及び講演あり參聽隨意なり

朝 我が渴慕せる基督 平岩 博士

夕 我が敎會の本領 同 上

▲西本願寺 長谷川町西本願寺出張所に於ては本日午前十時大韓靑年會を開き佛敎使の靑年とは何ぞやとの韓語演說あり午後七時三十分よりは日本人布敎あり

○大割引販賣

中折帽子、靴下各種
ブローチ及ピン
キヤラコ各種
小供洋服各種

長谷川町一の四五
和加奈商會

一般患者ノ診療ニ從事ス

前院長橋本三男氏後任トシテ今般元福岡醫科大學醫員タリシ百合野寅松氏本日ヨリ診療ニ從事セラル

新王城大漢門前
日韓病院

本院ハ最新治療法ヲ旨トシ梅毒、癩病、下疳ハ本院ノ獨特トス
腫物、婦人病ニハ特ニビール氏ノ欝血療法ヲ施ス

廣告

一横製大角風呂三人入り 數個
一東京寄木細工物、塗物、一閑張類
但菓子器、卷煙草箱、硯箱、灰皿類

右は京城博覽會出品殘物にして今回同品に限りメチヤノ〵大安賣致候に付品切にならざる中早く御買求下され度候

日用雜貨 荒物卸問屋
京城南大門元保税市場
大谷支店
(電話三四六番)

齒科診療

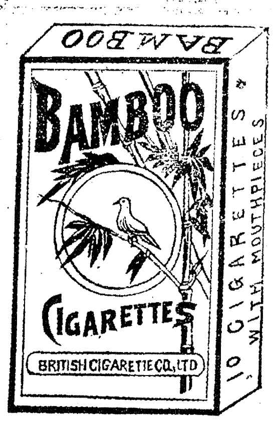
漢城病院を辭して開業す
前東京醫科大學勤務 統監府囑托 飯塚徹
東京共立齒科醫學校講師たりし 仁川分診所主任として 藤井庄次郎 氏を聘す
京城診療所 南山町三丁目第一銀行横五軒目
仁川分診所 仁川病院前の角 毎五、十日出張
診療時間 午前八時より午後四時迄 夜間七時より八時迄 毎五、十日京城新來休診

●大勉强廣告●
○うなぎ蒲燒○會席御料理
○うなどん○親子どんぶり

本町座前大和湯向
きく紋
電話九百五十四番

英米煙草會社製

パイレート
オールド
ヒーロー
ハーロー
サイクル
バムブー 권연



ドラムヘッド
ルーラー
満月
ピンヘッド
リング

京城	仁川	平壌	釜山
佐野商店	南力商店	齋藤商店	高瀬支店
林田商店	山口商店		内山商店
梶原商店	藤岡商店		谷商店
藤富商店	松平商店		萩野商店
	加來商店		淡盛商會

元山	群山	木浦	鎮南浦	安東縣
木平商店	横山商店	高瀬支店	齋藤支店	齋藤洋行
高瀬支店		藤森商店	秋田商會支店	秋田商會支店
		丸岡商店		

消化新劑 タカヂアスターゼ

本劑ハ工學博士高峰讓吉氏の發見に係る澱粉消化新藥なり
我邦學諸大家が治療上に於ける本劑の効果に就き發表せられたる實驗報告を收載せる「タカヂアスターゼ實驗報告集」は醫家の要求に從ひ無代郵送す
本劑は粉末錠劑各大小容器入として各地藥舖に販賣す 類似品あり必ず高峰氏タカヂアスターゼと御指定をなふ

韓國總代理店 仁川 倉知商會 電話三一二一〇三番

滋養新劑 グリコナール錠

本劑は醫學博士北里柴三郎氏の指導の下に佐伯矩氏が牡蠣の滋養成分に就き研究の結果創製せるものなり本劑は滋養劑として肺病及一般衰弱者に必適なるのみならず自ら心臟を强め盜汗を制止し速かに體力を恢復し元氣を旺盛ならしむる特異の功能ある事を多數の醫學者に證明せられたり
(本劑の說明書は御申越に從ひ呈送す)

東洋發賣元 東京 三共藥品合資會社
韓國一手卸元 仁川 倉知商會 電話一一三一二〇番
京城 近藤賣生堂 古城贊化堂 新井藥房支店
仁川 北島藥店 新井藥店 松尾藥店
其他到る處の藥店にて錠劑粉末何れも販賣仕候

新炭 石炭 たろし
食料品 雜貨 諸官衙 御用達
小賣
京城西小門通
神野商店



乘馬用は別に定價表あり御依賴に應ずべし
氷上蹄鐵並裝蹄共 金六十錢
尋常蹄鐵裝蹄共 金四十錢
大勉强候也 當分の內御用相勤中
京城長谷川町一丁目四十二番
阿部合名會社出張所
裝蹄部

營業科目

土地家屋鑛山山林賣買貸借ノ仲介
土地家屋鑛山山林測量製圖應依賴
灌漑排水事業設計應依賴
土地整理並丈量應依賴
鑛山未墾地出願代辨
土地家屋賣買證明願手續代辨
外國旅券出願代辨
新聞廣告取次
電話賣買取次
韓國に關する圖書雜誌閱覽
韓國に關する非賣出版書閱覽
韓國に關する本社調査書類閱覽
商品依託持約代理店ノ仲介

▲弊社は誠實秘密且敏速に業務を營む
●宅地及韓人家屋の賣物あり
●商店向其他の貸家あり
●鑛山の賣物あり
●耕地未耕地の賣物あり
▲弊社は各方面に涉り各事項を調査す
本社 京城永樂町一丁目八番戶假事務所

支社

東京	東京麴町區一ッ橋十見町	伊藤豐次郎
大阪	尼ヶ崎字宮町	由比昌太郎
仁川	仁川新町一丁目	遠藤喜平
釜山	釜山入江町一丁目	加納佐一
木浦	木浦山手通三丁目	谷垣嘉市
鎮南浦	鎮南浦西二丁目	古田稻市
開城	開城西部	今福又三
水原	水原南門內	川口直三郎
元山	元山居留地	菅鶴平
鏡城	鏡城北門內	菅平支店
平壤	平壤大和町	佐久間賢次郎
大邱	大邱東門外	稻本新作
龍山	龍山元町	吉岡一臣



新造最良口附紙巻煙草
진조최량제물부리지권연초

資本金三百万圓
銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候
本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎮南浦 安東縣
株式會社 第五十八銀行 京城支店 (電話五八番)

爲替取組先
東北山南臺
山陽海
內道道道灣
二十七ヶ所 十三ヶ所 七十五ヶ所 二十三ヶ所 五ヶ所 二ヶ所

東北山西韓清
海陸陰海
道道道國國
二十八ヶ所 十ヶ所 十三ヶ所 三ヶ所 九ヶ所 一ヶ所